

平成30年度第3回香芝市都市経営市民会議 議事要旨

開催日時	平成31年2月13日（水）午前10時00分～12時00分
場 所	香芝市役所 本庁舎 3階 第1会議室
出席者	中川(幾)会長、平越副会長、石原田委員、植田委員、粕井委員、清水委員、 中川(廣)委員、萩原委員、吉村委員（計9名）
事務局	企画部長、企画部次長、企画政策課職員
議 題	「香芝市まち・ひと・しごと創生総合戦略」における事業の進捗確認について

1. 諮問事項2「香芝市まち・ひと・しごと創生総合戦略」進捗確認について

○概要

「香芝市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に位置付けられている各施策の事業について、平成30年度の進捗状況のまとめを事務局から報告し、都市経営市民会議委員から意見をいただいた。

○意見・質疑

基本目標1：香芝における安定した雇用を創出する（施策1～4 全13事業）

- ・「香芝起業セミナーみらい塾事業」（4ページ）については、奈良県下でも他に類を見ない非常に良い事業だと思うので、ぜひ継続していただきたい。

基本目標2：香芝への新しいひとの流れをつくる（施策5～7 全14事業）

- ・「広報紙発行事業」（15ページ）において、月2回発行しているが、市ホームページの内容も充実してきていることを踏まえ、月1回発行としても問題ないのでは。そうすれば発行費用も抑えられるのではないか。
→（事務局）掲載量（情報量）を変えずに月2回を月1回に変更しても、1回の配送料が割高になること等、一概に費用が半減するともいえない現状がある。これまでも庁内で検討は行っており、今後も検討していく。
- ・「香芝市・広陵町共催合同企業説明会」（17ページ）について、少子高齢化も相まって近年の働き手不足は深刻であり、働き手が少なく、説明会に参加できる人自体も少ないため、説明会の実施は見送るのは妥当な判断ではないかと思う。
- ・「香芝ブランド推進事業補助金」（21ページ）について、香芝ブランドの応募が減ってきており、停滞している現状をふまえ、新しい展開、アイデアが必要だと思われる。
- ・「香芝ブランド推進事業補助金」（21ページ）について、香芝ブランド販路拡大の戦略をたてるプロデューサーの助言が必要。
- ・「悠久の光」（30ページ）について、遊休農地の解消については、次々に新しいアイデアや手法を用いて取り組んでほしい。

基本目標 3：若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる（施策 8～10 全 16 事業）

- ・「地域子育て応援事業」（31 ページ）について、ファミリーサポートの利用件数は把握しているのか。
→（事務局）市による新規マッチングは例年約 10～20 件で、年間の利用件数は 110～150 件である。
- ・「地域子育て応援事業」（31 ページ）「未就園児交流事業」（32 ページ）「園庭解放・ほっとひろば・すこやか育児相談」（33 ページ）について参加者数が減少しているが、増加することだけを良しとする数値なのかどうか。待機児童が解消されていたり、公的な場以外に居場所ができていたり等、他の因子の良い影響も考慮したうえでの検討を行う必要があるのでは。
- ・「虐待対応連携強化事業」（40 ページ）について、要保護児童対象者（延べ 405 人）に対して、十分に対応可能な体制が整っているのが重要。対応できている延べ人数だけでは、事業の実態が見えてこない。
- ・「虐待対応連携強化事業」（40 ページ）について、要保護児童に対して十分に対応ができているのかどうか、非常に重大な事柄だと思うので、今一度評価の精査が必要。結果として子どもが守られているのかどうか分かるよう書き示してほしい。
- ・「学校教育環境整備事業」（49 ページ）について、猛暑対策のためにもエアコン設置はぜひとも必要であると思う。

基本目標 4：時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する（施策 11～15 全 22 事業）

- ・施策の K P I（77・78 ページ）について、累計値で設定しているものについては、「（当該年度数値）／（累計値）」と表記するとわかりやすいと思う。
- ・「防災用品等備蓄事業」（65 ページ）について、京田辺市と災害時相互応援協定を締結したとあるが、なぜ京田辺市なのか。
→（事務局）自治体規模が類似している点や、災害時に迅速に対応できる場所である等を総合的に判断した。京田辺市以外にも複数の自治体と協定を締結しており、市ホームページ等で公表している。
- ・「流域貯留浸透事業」（68 ページ）について、ため池治水対策の進捗が遅れていることは、災害時対応等の観点からも問題である。
- ・国からの補助金の交付状況によって評価が左右されるのはいかなものかと思う。
- ・「公共交通運行事業」（57 ページ）について、公共バスの運行ルートで道が細い所にはバス停が無いことが多く、利用者のニーズに合っていないように思う。
→（事務局）香芝市地域公共交通網形成計画を策定する予定であり、そういった意見を踏まえ今後検討していきたい。

全体総括

- ・担当所管や事業によって、内容の表記方法や目標設定の考え方等にばらつきがある。アウトプットではなくアウトカムを意識し、適切な目標設定を行えるよう、所管課の意識を統一していくことが必要。
- ・今回提示の K P I の変更については承認する。ただし K P I の設定方法について、数値をストックしていくことが評価を行う際に適切である場合は累計値とするのが妥当であるが、そうでない場合は単年度値にする方が望ましい。現状の設定方法が適切であるかどうか常に検討し、最適な指標とすること。
- ・各事業の A 評価が、香芝市全体としての施策目標達成に貢献できているのかが見えにくい。香芝市がすごく良くなってきているという実感はそれほどない。
- ・事業と事業が相互に関係しているという姿が見えにくい。各事業が連動した全体像が見えるような評価及び分析が必要。
- ・質の向上を目標とする事業においては、数値化しにくいので、アンケート等で利用者の意見をきく機会を設け、評価に反映していくことも必要。
- ・子育て世代への投資は将来への投資である。香芝市は県内でも子どもが多いまちなので、子育て世代への取り組みに力を入れてほしい。
- ・K P I の相互の数値どうしの関連性（例えば香芝ブランド認定品数と新規創業者数等）に着目し、試案的なものでもよいので探ってみてはどうか。また、最終目標として K G I (Key Goal Indicator : 重要目標達成指標) があって、それを達成するために K P I があるといった意識を持つことで、全体像をつかむ必要がある。施策どうしの関連性をみていく段階にあると思う。

2. その他

その他連絡事項を伝達

以上